



# 認知症家族教室



## 第32回認知症家族教室 2月18日(土)

今回は、入院中の患者様のご家族だけでなく、精神科外来通院中の患者様のご家族も合わせ10名のご家族に、「症状別の関わり方・接し方について」認知症専門病棟の看護師と精神科作業療法士より、お話をさせていただきました。

先ず、特にご家族がお困りである症状「徘徊」については、ご本人の徘徊にどんな「目的」があるかがポイントになります。例えば、実際に今、仕事はしていないのに「仕事に行く」などといわれる場合は、ご本人の世界観に合わせて「残りの仕事は、私がしておくので、ゆっくり休んで下さい。」など安心していただけるような声かけをすることが大切です。一方、ご本人自身が目的を忘れ突発的な思いで徘徊される場合などは、徘徊される理由を普段の生活の中から考え、食事の提供やトイレ誘導の声かけを行い身体的な不快感を解消するなどの働きかけや、時にはご本人の意識が別の方に向く話題提供をすることも大切であるとお伝えさせていただきました。

次に、「物盗られ妄想」については、一番身近なご家族が妄想の対象となり、不信感をもたれる場合があります。「財布が見つからない、盗られた。」とご本人が不安なときには、ご本人と一緒に探し、ご本人に見つけてもらうことがポイントです。と伝えさせていただきました。しかし、ご家族はご本人への毎日関わりの中で、どうしてもご本人に対してストレスを感じ、怒ってしまったり、否定する対応をしてしまいがちです。そのような状況で、今回ご参加頂いただいたご家族からは、「本人がなぜこのような行動をするのか。本人に寄り添った対応とはどんな対応かを知ることで、家族・本人お互いのストレスが軽減されるのではないか」という感想を頂き、あらためて「認知症を正しく理解する」ことの大切さ感じる事が出来る教室でした。